

全国青年ボランティアセンター ニュースNO1（宮城版） 4月30日

青年ボランティア「お届け隊」

東松島に救援物資を届けました！

29日は宮城の青年ボランティア9人が「救援物資お届け隊」となって東松島市で被災した住民の方々に物資をとどけました。

午前中、宮城県各地からよせられたお米やゴボウ、ジャガイモなどの野菜、果物、トイレットペーパー、靴下、お菓子などの救援物資を仕分けし、車3台に分乗して東松島市に向かいました。

到着後、共産党東松島市議の長谷川博さんと合流し、現地に移動しました。東松島市は津波被害がひどかった場所で、途中、津波によるガレキや泥が道端に積み重ねられ、被害の傷跡が胸を突きました。

目的地に到着し、ハンドマイクで「救援物資をお届けにきました。必要なものがあればおとりください」とよびかけると、住民の方がたが次つぎと物資を積んだ軽トラックに近づいてきて「お米を下さい」「ゴボウがほしい」「靴下がないんだよ」と食品や生活物資を受け取っていきました。青年ボランティアスタッフが年配の女性に「大変でしたね」と声をかけると、「そうだったのよ。うちにも津波が60cmくらいまで浸水してずっと水が引かなかったから2階で10日間くらい避難していた。そこに仲間がボートに乗って助けてくれた。それから給水車が近くまできた事があるけれど、支援物資がここまで来たのは初めて」と話してくれました。「今日はありがとう。お米や野菜は助かるわ。どこから来たの」という女性の言葉に「仙台から来ました」とスタッフが答えると「え〜。そんな遠くから来たの!? 本当にありがとう!」と話してくれました。

仙台に帰ってからボランティアスタッフで感想交流をしました。今回初めてボランティア活動に参加したSさんは「自分も何かしたいと思っていたときに、『青年ボランティア募集』のチラシを見てメールで問い合わせたので今回参加しました。私は現地を知らなかったけれど、実際に見てすごく勉強になった。今後、もっと現地の人々の声を聞いてみたい」と話してくれました。

他のメンバーからは「被災者1人ひとりニーズがちがうとわかった」「素直に『意味がある行動をできた』と思えた」など感想がだされました。

4月30日は宮城と兵庫のメンバーが南三陸町に「救援物資お届け隊」に行きます！